

文教・警察常任委員会資料  
平成25年(2013年)11月13日  
教育委員会事務局学校教育課

## グローバル人材の育成について

教育委員会事務局

## スーパーグローバルハイスクールについて

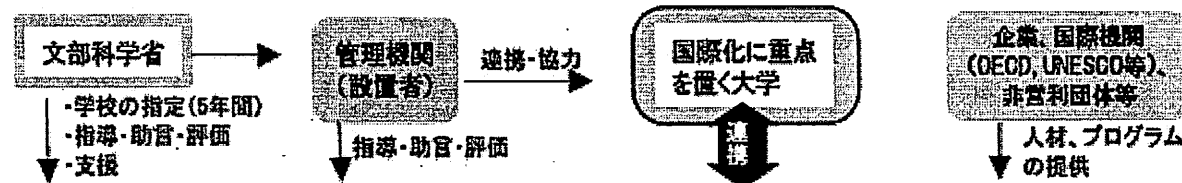
平成26年度要求・要望額  
29億円（新規）

- ◆目的：急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、語学力とともに、幅広い教養、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来的に政治、経済、法律、学術等の分野において国際的に活躍できるグローバル・リーダーを、高等学校段階から育成する。
- ◆事業概要：国際化を進める国内外の大学や企業、国際機関等と連携を図り、外国語（特に英語）を使う機会の飛躍的増加、先進的な人文科学・社会科学分野の教育の重点化等に取り組む高等学校等を「スーパーグローバルハイスクール」に指定し、質の高いカリキュラムの開発・実践やその体制整備を支援。

支援対象期間：平成26年度より5年間

支援対象学校：国公私立高等学校及び中高一貫教育校（中等教育学校、併設型及び連携型中学校・高等学校）

支援規模：1校あたり2,900万円、平成26年度は100校を指定（予定）



### スーパーグローバルハイスクール (SGH)

平成26年度 100校を指定（予定）

**【主な取組】**

- ・ 人文科学・社会科学分野の先進的な教育課程の開発・実践(教育課程の特例の活用を想定)
- ・ グループワーク・ディスカッション、調査研究・論文作成・プレゼンテーションの実施(英語によるものも含む)
- ・ 国際的素養を身に付けたグローバル・リーダーの育成を図る指導方法の研究・蓄積
- ・ 帰国・外国人生徒の積極的受入
- ・ 海外研修など海外の高校・大学との交流機会の充実
- ・ 外国人教員の活用(「新・お雇い外国人教師」)

**【大学との連携】**

- ・ 人文科学・社会科学分野の教員や、帰国・外国人教員の派遣
- ・ 入試の改善による生徒の学習内容の適切な評価
- ・ 単位認定を含む高大連携プログラムの提供

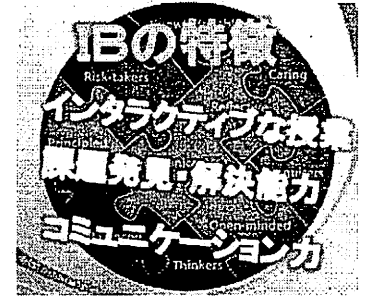


国際機関職員、社会起業家、グローバル企業の経営者、政治家、世界的な人文・社会科学の研究者、大学教員等の輩出

### 国際バカロレア (IB) について

- 国際バカロレア (IB) は、国際バカロレア機構 (IBO: 本部ジュネーブ) が実施する国際的な教育プログラムであり、グローバル人材を育成する有用なツールの一つ。
- このうち、16歳～19歳を対象としたディプロマプログラム (DP) は、所定のカリキュラムを履修し、最終試験に合格することで、国際的に通用する大学入学資格 (IB資格) を取得できるプログラムであり、世界の主要な大学において入学選考等に広く活用。

※この他、3～12歳を対象としたプライマリ・イヤーズ・プログラム (PYP)、11～16歳を対象としたミドル・イヤーズ・プログラム (MYP) がある。

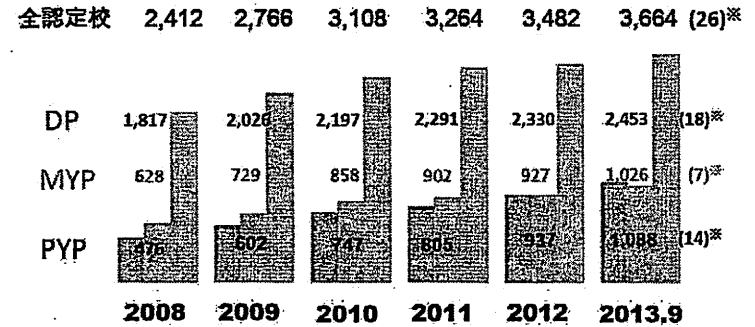


### 現状等

○現在、我が国におけるIBの普及・拡大に向けて、以下の取組が実施。

- ・国際バカロレア日本語デュアルランゲージディプロマ (「日本語DP」) の開発・導入  
平成25年度から、国際バカロレア機構との協力の下、DPの科目の一部を日本語でも実施可能とする「日本語DP」の開発・導入に着手。
- ・「国際バカロレア・デュアルランゲージ・ディプロマ連絡協議会」  
☝ 東京学芸大学を中心とした、IBに関心を有する高校等の連携・情報共有の場。
- ・「国際バカロレア日本アドバイザー委員会」の設置  
高校・大学・経済界等の有識者が、我が国におけるIBの普及について議論。IBOが設置。

世界におけるIB認定校数の推移



※()内は日本国内の学校数。  
H25年9月現在、日本のDP認定校数は18校(うち一条校は5校)。

### 「日本再興戦略 - JAPAN is BACK -」 (平成25年6月14日閣議決定)

- ・一部日本語による国際バカロレアの教育プログラムの開発・導入等を通じ、国際バカロレア認定校等の大幅な増加を目指す (2018年までに200校)

### 今後の取組

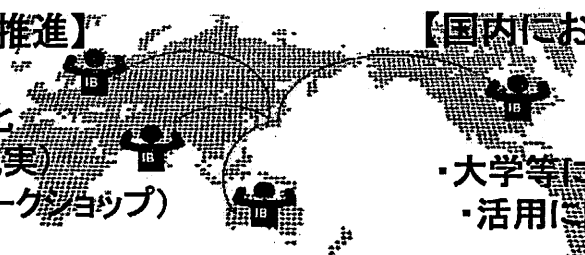
○平成26年度においては、我が国におけるIBの実施に必要な環境整備を図るとともに、更なる普及・拡大の加速のため、以下の取組を実施。

#### 【日本語DPの一層の推進】

- ・日本語DPの開発強化 (日本語DP科目の充実)
- ・IB教員養成研修 (ワークショップ) の実施

#### 【国内におけるIBの普及】

- ・大学等におけるIB資格の評価
- ・活用に関する調査研究



#### 日本語DPによるIB校認定スケジュール (最短ケース)

- ・平成25年10月  
IBOに対し、最初の日本語DPによる候補校申請
- ・平成27年 2月頃  
IBOから、最初の日本語DPによるIB校認定
- ・平成28年 4月  
最初の認定校で、2年生より日本語DP課程開始
- ・平成29年11月  
同校で、3年生がIB試験受験

◎国際バカロレアについて

- ・国際バカロレア機構(本部:ジュネーブ)が実施する国際的な教育プログラムであり、145か国、約3,600校において実施(平成25年5月現在。以下同じ)。
- ・3歳~19歳までの年齢に応じて、「プライマリー・イヤーズ・プログラム(PYP)」「ミドル・イヤーズ・プログラム(MYP)」「ディプロマプログラム(DP)」がある。
- ・このうちディプロマプログラム(DP)は、最終試験に合格することで、世界各国で認められているディプロマ資格(大学入学資格)が得られるプログラムであり、世界の約2,400校において実施。
- ・国際バカロレア機構では、国際バカロレア(IB)共通カリキュラムの作成のほか、IB校の認定、IB試験の実施、IB資格授与などを実施。

◎ディプロマプログラム(DP)について

- ・授業、試験は、母語を除き、英語、フランス語、スペイン語で実施(一部、ドイツ語、中国語でも実施可)。
- ・カリキュラムは6科目(言語と文学、言語習得、個人と社会、実験科学、数学とコンピューター科学、芸術)から選択するほか、3要件(Theory of Knowledge, Extended Essay, Creativity/Action/Service)を満たす必要。
- ・DP資格を取得するためには、所定の課程をすべて修了し、筆記試験において45点満点中24点以上を取得することが必要。

◎現状と課題

- ・DPでは、基本的に英語で授業・試験を行う必要がある(母語を除く)、導入に当たっては、英語で指導可能な教員(主に外国人)の確保等に課題がある。
- ・なお、我が国のIB認定校は24校。このうち、DP実施校は16校。

日本語デュアルランゲージディプロマプログラム(日本語DP)の導入

IBにおいてディプロマプログラム(DP)の科目の一部(経済、歴史、生物、化学、Theory of Knowledge、Extended Essay、Creativity/Action/Service)を日本語でも実施可能とする「日本語DP」を開発・導入し、IBの普及・拡大を推進。

※平成25年度予算において、日本語DP開発経費58百万円を計上。

【日本語DP導入の効果】

- 日本人教員による指導が容易に
- 優秀な日本人教員の確保・活用等



- 国際バカロレアDPの導入が容易に



- 国際バカロレア認定校の増加



- グローバル人材の育成

(参考)

日本語DPによるIB候補校認定に係る最短スケジュール

- ・平成25年10月  
IBに対して最初の候補校申請
- ・平成27年 2月頃  
IBから最初の候補校が認定
- ・平成27年 4月  
最初の認定校に1年生が入学
- ・平成29年11月  
最初の認定校で3年生が試験
- ・平成30年 3月  
最初の認定校から3年生が卒業

平成30年までに、IB認定校等の大幅増加を目指す  
(16校→200校)